

全国最小の村は子供の割合日本一の村でした。

10年後、**「第2の奇跡」**
わんぱくで活躍する子供達の「日本一」を達成。

「第1の奇跡」
子供の割合日本一を達成。

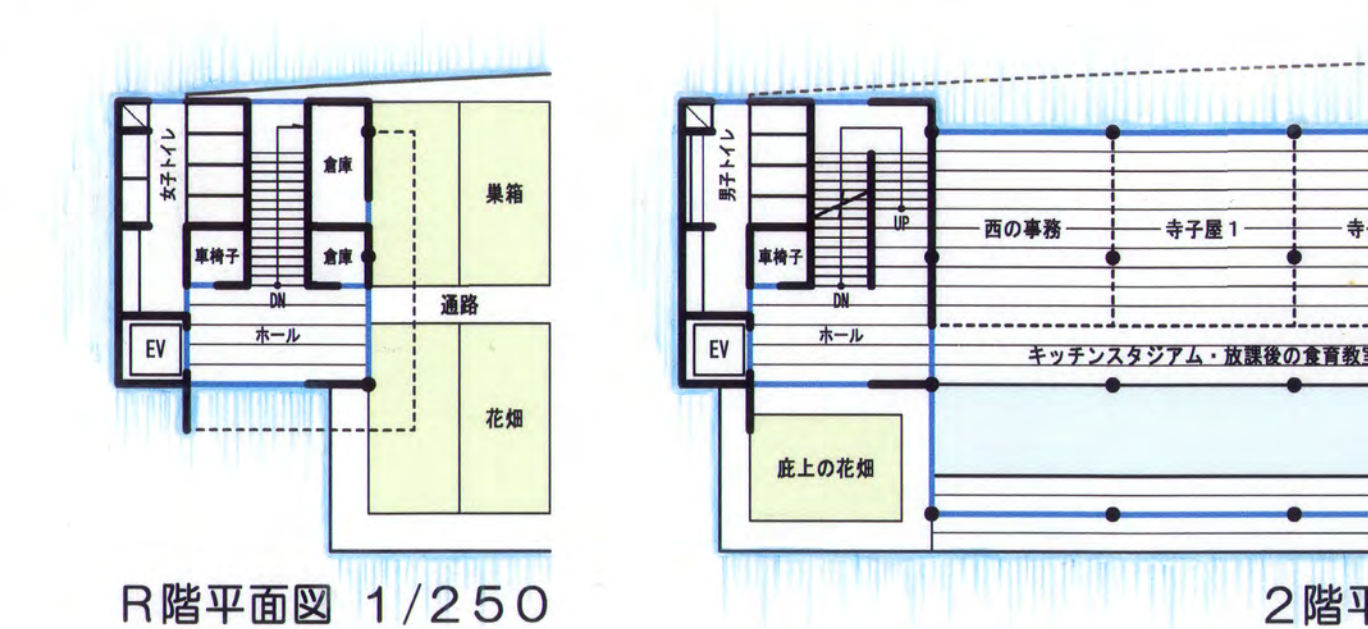
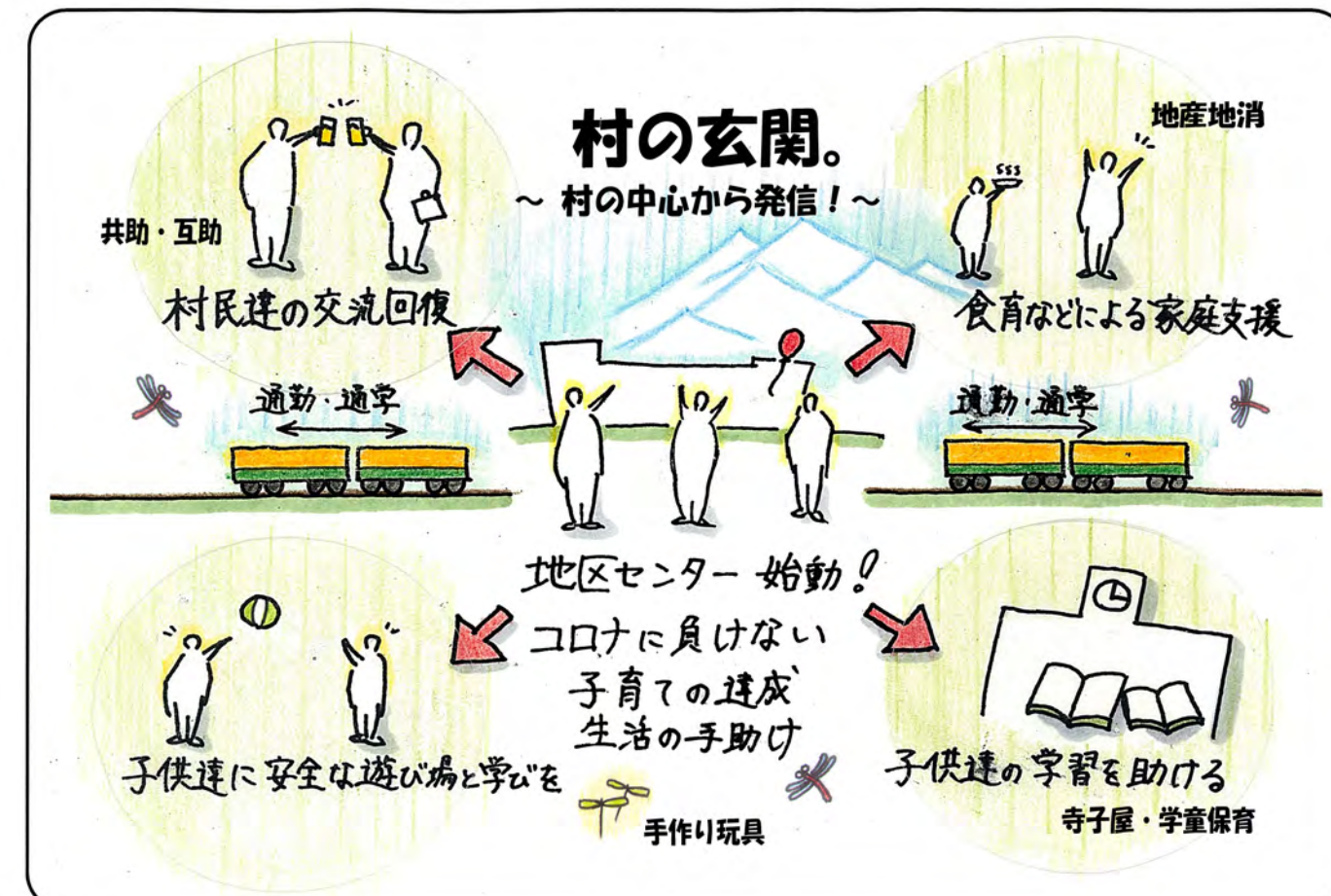
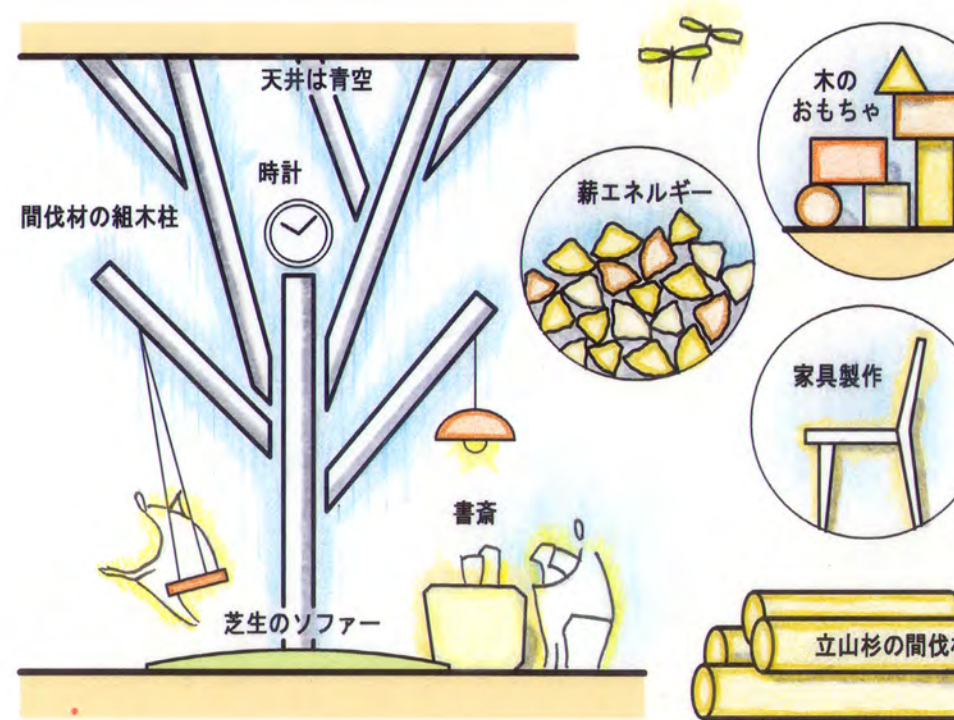
コロナ禍に突入！
子育ての責任と不安
外出禁止、引きこもりの増加
ゲームやスマホの悪影響増大

地区センターの活動スタート
子供を見守り育てるプロジェクト始動

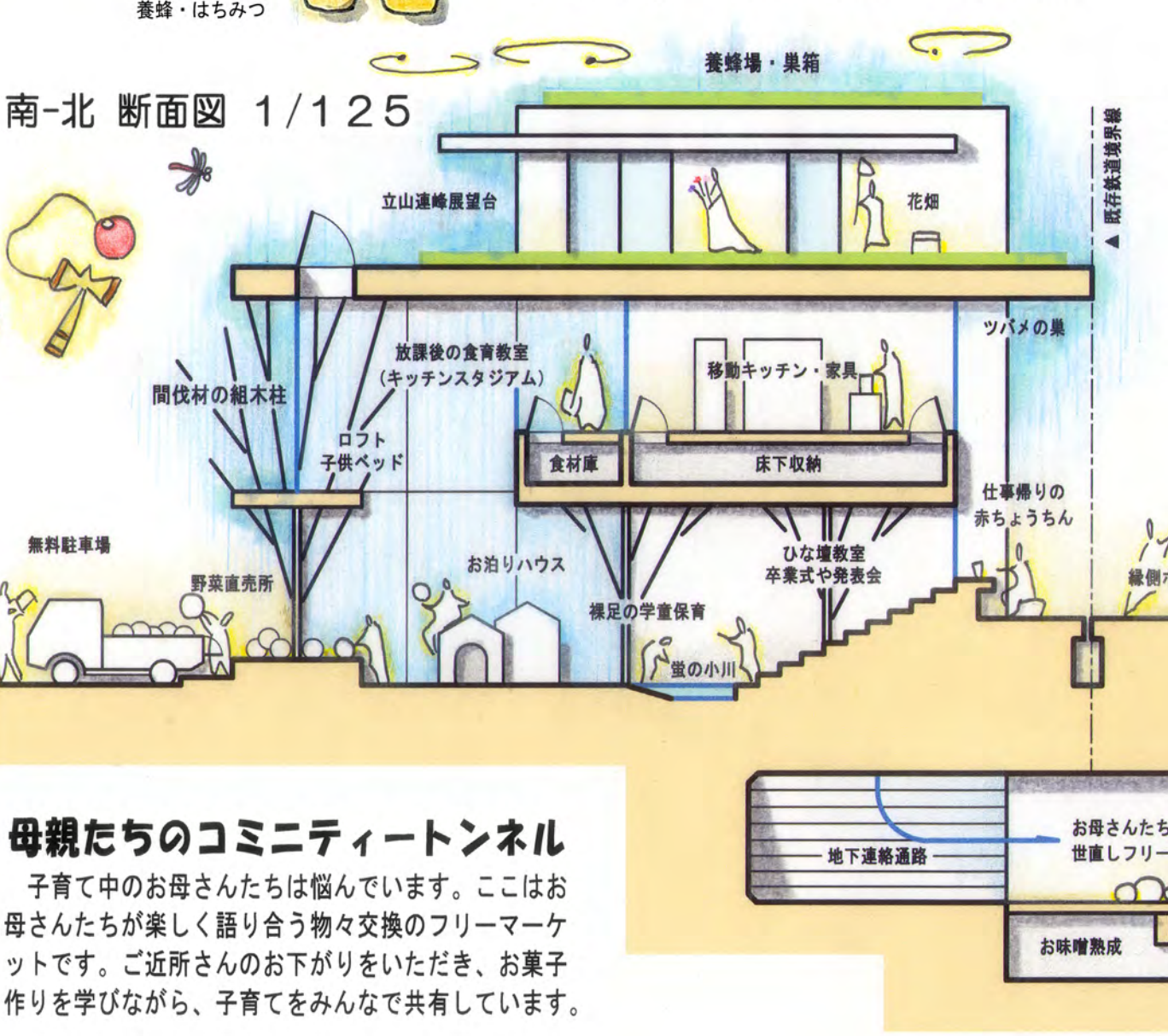
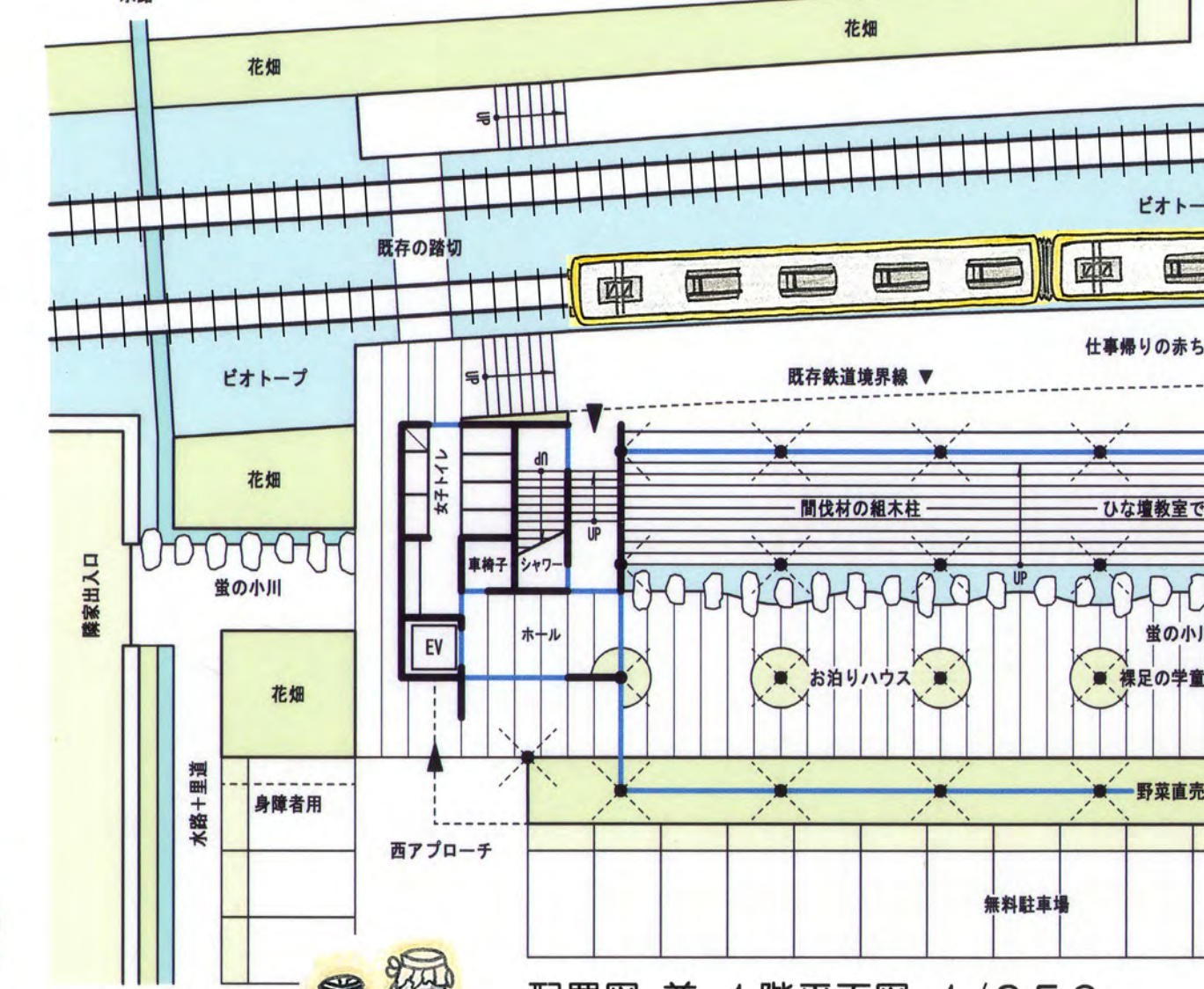


裸足で遊んで、蛍の小川でお泊り学習。
ここは裸足の教室です。教室には立山の雪解け水や湧き水が年間を通して流れ込みます。きれいな小川の川は蛍やトンボの住み家になっています。子供たちは、裸足で遊んで蛍の小川でお泊り学習をしながら成長して行きます。

間伐材の利用と組木柱。富山県の林業を活性化。
富山県の林業は頑張っています。魔法の材料である立山杉の間伐材をご存じですか。間伐材は様々な場所で利用され、この建物でも組木柱の構造体となっています。組木柱たちの大空間は、まるで森林のような優しさです。



子供シェフから、お父さん達へ晩酌をプレゼント。
地区センターでは働く家庭のために、学童保育も実施しています。子供たちは地域の食材で食育を学び、今夜の夕食や晩酌を働く親たちにプレゼントしています。



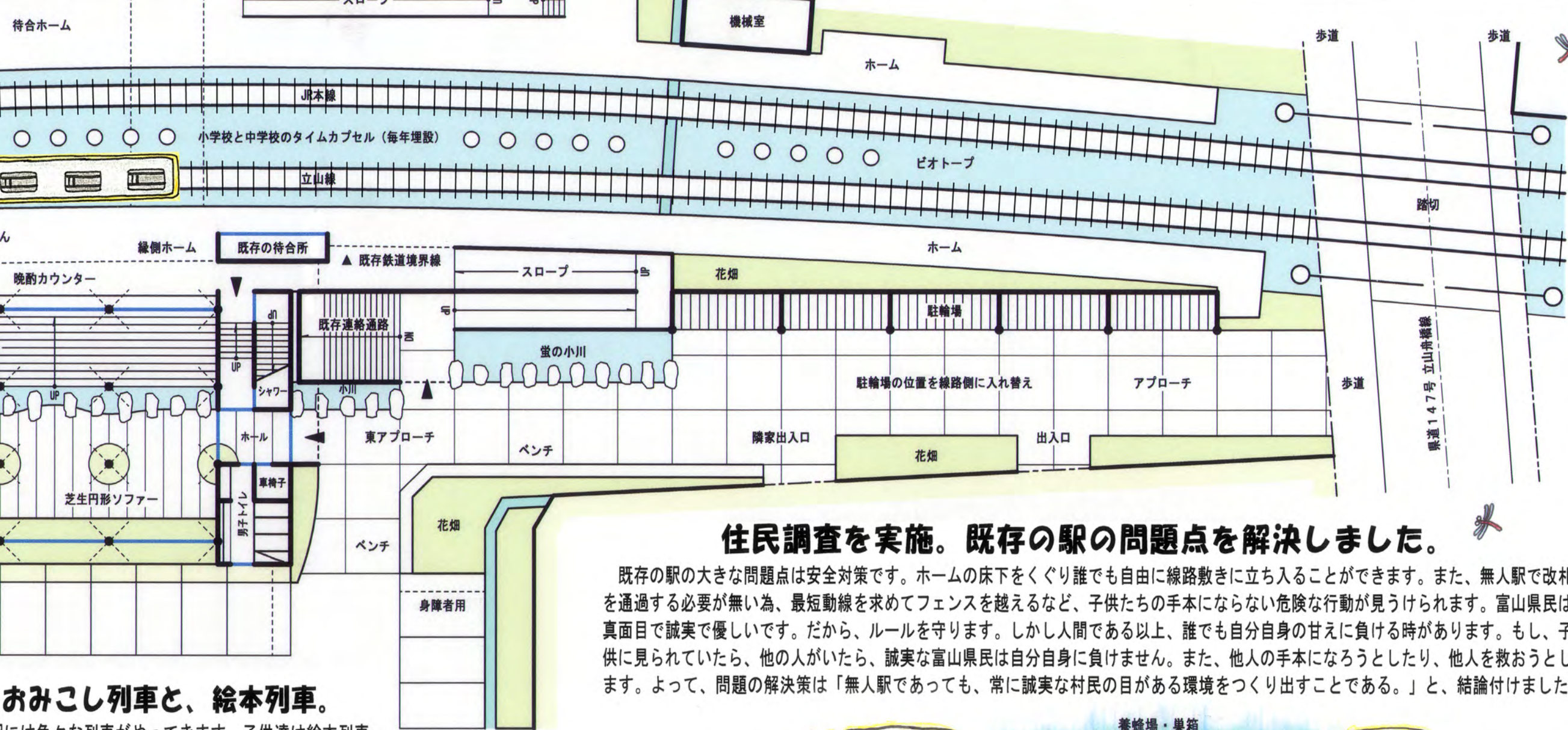
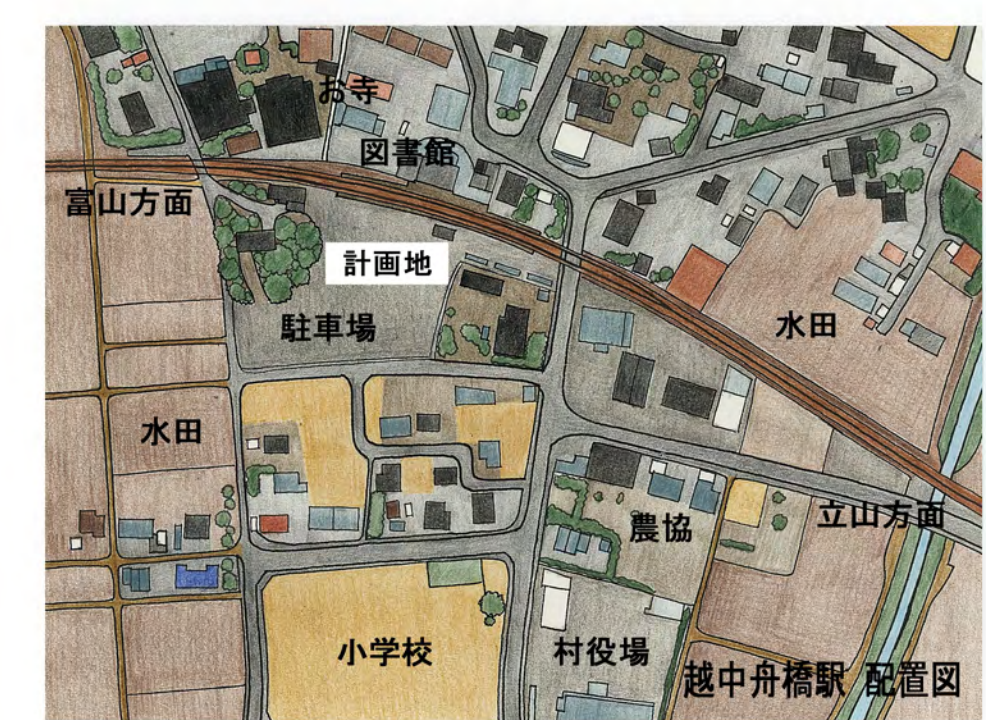
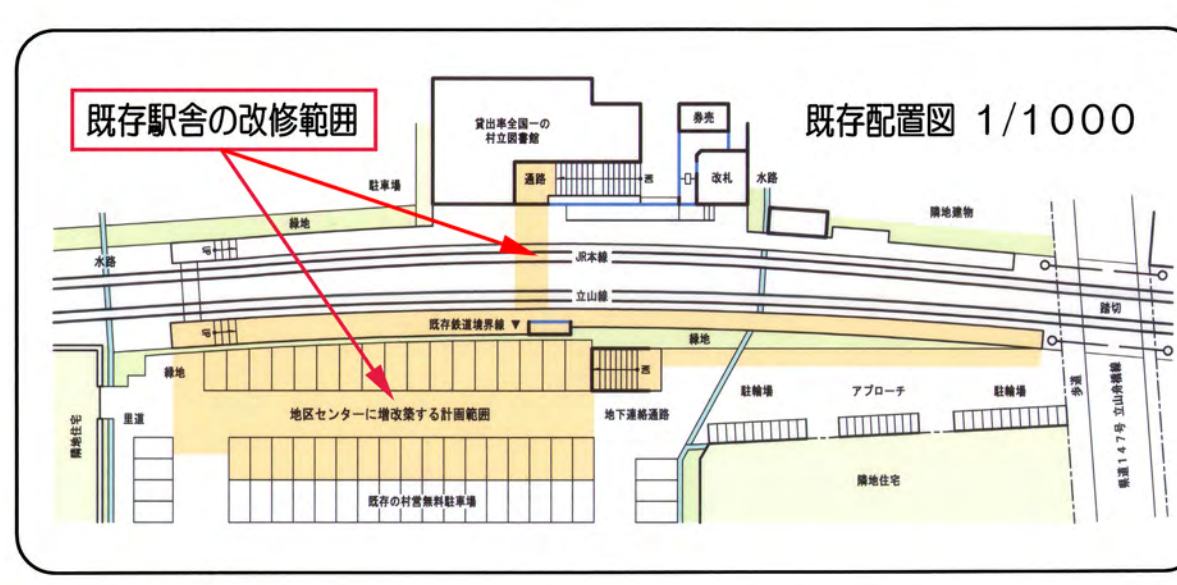
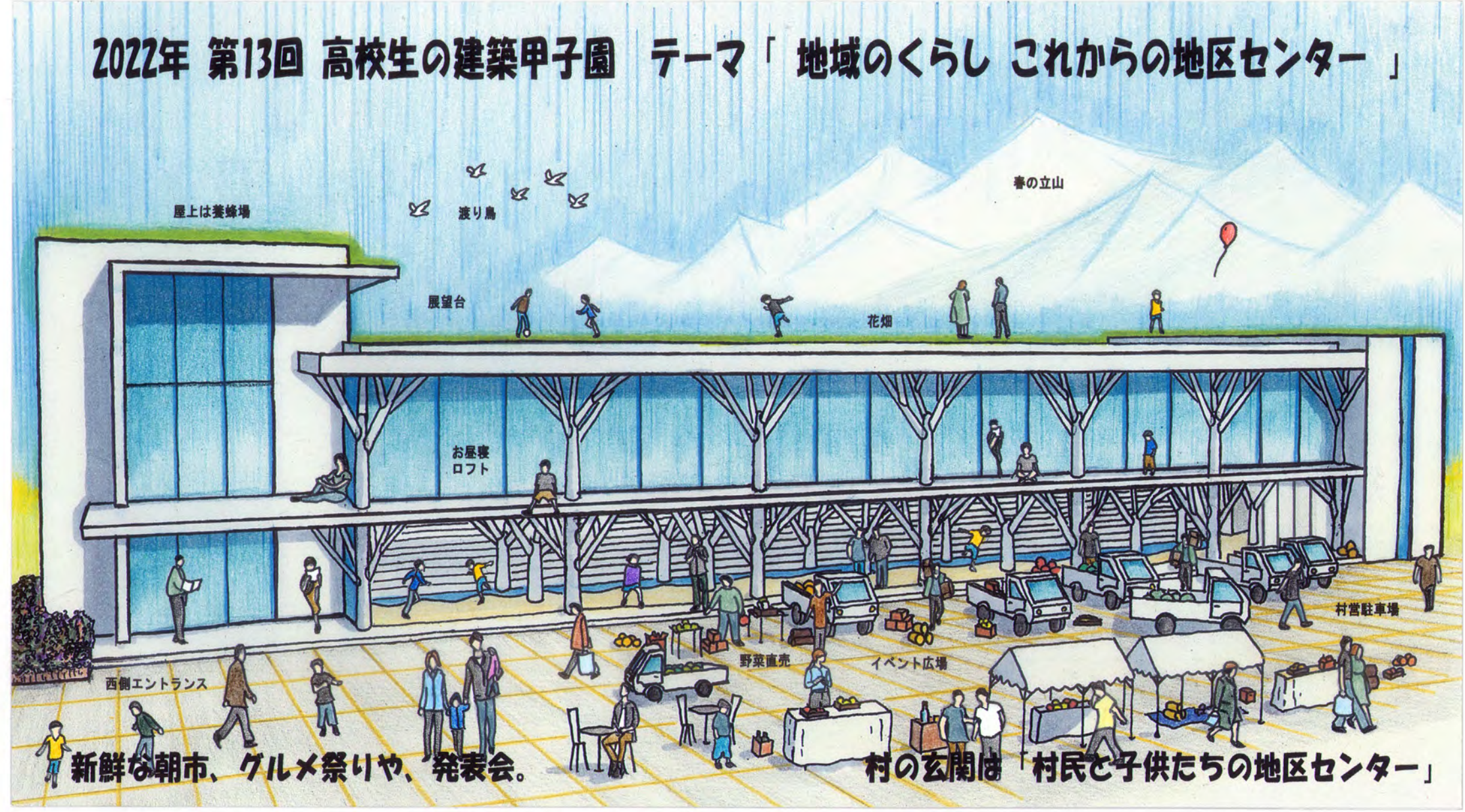
「コロナ禍よりモト時代突入して三年が経ちました。顔をマスクで覆い、人の距離や会話を制限される不安な時代においても、私たちの村では今年も多くの子供が生まれました。「コロナに負けない強い子に育てたい」「コロナ禍の生活を守ってあげたい」これらは、地域で暮らしを共にする村民たちの願いです。今回私たちは「コロナ禍の子供たちをみんま育てる」「コロナ時代の地区センター」を提案します。

村の玄関に、第2の奇跡を起こす地区センターを設置
子供を見守り育てるプロジェクト始動。

JR富山駅から車で二十分の「舟橋村」は、北陸三県にたった一つ残る全国最小の村です。村は若夫婦世代の移住や定住に成功し、子供たちの人口割合日本一を達成したことから「奇跡の村」と呼ばれています。小さな村の中心に越中舟橋駅があります。この駅には貸出率日本一の図書館と大規模な無料駐車場があり、村民以外の人々にも利用されています。舟橋駅は老朽化した屋根無し無人駅です。地域住民の多くは子供の列車事故に対する不安や、施設の老朽化による治安悪化を心配しており、管理者が常駐する安全で安心できる駅舎を望んでいます。今回私たちは、日常的に大勢の村民が利用する駅の特長と併設する既存図書センターの計画地を定め、既存老朽ホームの改修と駅舎の環境改善を含めた子供を見守り育てる「プロジェクト」をスタートさせました。

奇跡の村の玄関。

~村民と子供たちとの暮らしの暮らし~



おみこし列車と、絵本列車。
駅には色々な列車がやります。子供達は絵本列車。お父さん達は聖台列車が大好きです。旅人用のお泊り列車もやります。春や秋のお祭りでは、村の山車や、おみこしを線路に引き出し、村民全員でひき歩きます。

卒業式と、タイムカプセル。
舟橋村では、子供たちの巣立ちを村民全員で祝います。小中学校を卒業すると、卒業記念のタイムカプセルを線路中央の花畑に埋設します。私たちは、毎日利用するホームから自分や村の子供たちの成長を眺めて暮らします。

住民調査を実施。既存の駅の問題点を解決しました。
既存の駅の問題点は安全対策です。ホームの床下をくぐり誰でも自由に線路敷きに立ち入ることができます。また、無人駅で改札を通過する必要が無い為、最短距離を求めてフェンスを越えるなど、子供たちの手本にならない危険な行動が見受けられます。富山県民は真面目で誠実で優しいです。だから、ルールを守ります。しかし人間である以上、誰でも自分自身の甘えに負ける時があります。もし、子供に見られていたら、他人の目が、誠実な富山県民は自分自身に負けません。また、他人の手本にならうとしたり、他人を教おうとします。よって、問題の解決策は「無人駅であっても、常に誠実な村民の目がある環境をつくり出すことである。」と、結論付けました。

